

まつもと市民芸術館

3人の監督団 劇場指揮

木ノ下裕一さん

倉田翠さん

石丸幹二さん



主ホールの客席を背景に撮影に応じる(左から)倉田さん、木ノ下さん、石丸さん

松本市は28日、まつもと市民芸術館(松本市深志3)の次期芸術監督を担う新たな「芸術監督団」(3人)を発表する記者会見を芸家、振り付け家、ダンサーの倉田翠さん(57)が就く。3月に総監督を退任した串田和美さん(80)の後任として、来年度は参与として芸術監督団の団長を務める木ノ下さんは「開いて

【解説】4期20年にわたって芸術監督を務めた串田さんの後任は、分野の異なる3人が就任する。演劇部門の木ノ下さんが団長に選ばれて串田さんの演劇路線を受け継ぐ一方、その他の芸術分野まで幅を広げた格好だ。

芸術館の主ホールは大規模な舞台装置とオーケストラピットを備える歌劇場として設計され、19年前のこけら落としは小澤征爾さん指揮の歌劇だった。地方の歌劇場として

音楽分野 振興いかに

使いこなせるかが注目されたが、近年は話題となる歌劇公演の実績に乏しい。「薬都・松本」を標榜してきた松本市でありながら、芸術館の芸術監督に「音楽分野」が置かれなかった。4人の検討委員のうち、3人が「演劇分野」であったことは適切だったのか。音楽に理解の深い石丸さんが、ゼネラルアートアドバイザーとして音楽分野を補完できるかが注目される。(田子元気)

サーの倉田翠さん(35)が選ばれた。その他の芸術分野を支えるゼネラルアートアドバイザーに、俳優歌手の石丸幹二さん(57)が就く。3月に総監督を退任した串田和美さん(80)の後任として、来年度は参与として芸術監督団の団長を務める木ノ下さんは「開いていく劇場」をテーマに、さまざまな分野で劇場文化の光をともしたい」と意気込みを語った。

倉田さんは「ジャンルが異なる3人での就任は心強い」と話し、石丸さんは「これまでやっていないことにもチャレンジし、より松本市民に開かれた劇場を目指す」と話した。串田さんの後任を選ぶ市の検討委員会(青山織人委員長)は4月、演劇と舞踏の各部門1人と、その他の芸術活動を支えるアドバイザーの計3人からなる芸術監督団を提案し、候補者名を盛った答申書を臥雲義尚市長に提出していた。

臥雲市長は会見で「次の世代に向けて発信のできる若く才能のある人材、さらに松本になじみのある人材の観点から就任していた。木ノ下さんは平成28(2016)年、主宰する木ノ下歌舞伎が芸術館で開いた「信州・まつもと大歌舞伎」の関連企画で上演した「勸進帳」で文化庁芸術祭新人賞を受賞した。倉田さんは舞台作品をつくる団体「akakilike(アカキライク)」を主宰。薬物依存回復施設の入所者やオフィスワーカーらと舞台芸術作品を制作している。石丸さんは東京芸術大在学中に劇団四季に入り、「オペラ座の怪人」でデビューした。芸術館では串田さんが構成・演出を手がけた舞台「空中キャバレー」に出演している。(田子元気)